

令和7年度 第139回木曾教育会総集要項

期 日 令和7年5月16日（金）
会 場 木曾文化公園文化ホール
14：30～17：00

日 程

- | | |
|---|-------------|
| 受 付 | 14：00～14：20 |
| 開会音楽「大地讃頌」
唱歌「朝」 斉唱（全員） | 14：30～14：39 |
| 1 開会のことば | 14：40～ |
| 2 会長あいさつ | |
| 3 来賓祝辞
信濃教育会・木曾郡町村長会 | |
| 4 来賓紹介 | |
| 5 祝電披露 | |
| 6 6年度会務会計報告並びに7年度事業計画 | |
| 7 会員研究・実践発表
「令和6年度道德委員会活動報告：吉江あや子先生（日義小）」
「ホームページ在り方検討委員会：牧 友博 先生（開田中）」 | |
| 8 講演 | 15：40～16：50 |
| 演題 「これからの社会の変化と教育の方向性について
～経営実務者の視点から～」 | |
| 講師 挽野 元（ひきの はじめ）様
（アイロボットジャパン合同会社 代表執行役員社長） | |
| 9 閉会のことば | ～17：00 |

要項目次

- | | |
|-------------------------|------|
| 1 総集要日程 | |
| 2 来賓名簿 | p 1 |
| 3 令和6年度 会務会計報告 | p 2 |
| 4 令和7年度 木曾教育会事業及び運営 | p 3 |
| 5 令和7年度 研究の進め方と研究体制 | p 6 |
| 6 令和7年度 木曾教育会役員名簿 | p 8 |
| 7 令和7年度 木曾教育会会員数及び代議員名簿 | p 8 |
| 8 令和7年度 木曾教育会事業部委員会構成 | p 9 |
| 9 唱歌「朝」 | p 10 |

令和7年度 第139回 木曾教育会総集会 ご来賓名簿

1	信濃教育会 会長代理(総務・会計部長)	清水 恒善 様
2	長野県議会議員	大畑 俊隆 様
3	木曾郡町村会総務文教部長(上松町町長)	村田 広司 様
4	木曾郡町村会 会長(南木曾町町長)	向井 裕明 様
5	町村教委連絡協議会会長	増澤 正彦 様
6	町村教委連絡協議会教育長会長(大桑村教育長)	野知里 浩寿 様
7	清音の会 会長	寺嶋 匡彦 様
8	木曾郡学校長会長(上松中学校)	高本 誠二郎 様
9	木曾校長教頭組合執行委員長(大桑小学校)	小林 孝基 様
10	県教組木曾支部執行委員長(開田中学校)	平原 稔久 様

令和6年度 会務会計報告

木曾教育会

1 会務報告

- (1) 会員数 211名
- (2) 会議 総会議数回 61回
 <内訳> 代議員会 5回 理事会 15回 監事会 1回
 幹事会 17回 総委員会 1回
 各委員会 23回 (道徳5、特活5、養護2 郷土調査4 HPあり方6)
- (3) 主な事業
- ①新任者の集い 4月25日(木) 木曾教育会館
 - ②第138回総集会 5月13日(土) 木曾文化公園文化ホールにて実施
 ○会員研究・実践発表 開田小学校 小林一輝 先生
 ○講演会 北海道教育大学教授 福江 良純 先生
 - ③第76回木曾夏期大学 7月30日(火)～8月2日(金)
 木曾町文化交流センターを会場にハイブリット開催を実施
 - ④二校目教師の集い 5月27日(火)、7月30日(火)
 10月25日(金) (信濃教育会教師塾Bと兼ねる)
 - ⑤ 木曾地区教育研究集会 (三者共催) 8月31日(土) 於 木曾町中学校 →大雨により中止
- (4) その他
- 研究調査部 3委員会 12名
 - 郷土館部 1委員会 5名
 - 編集部 『木曾教育』第100号 大桑小学校
 『清音』第249号 第250号 木曾養護学校
 - 教養部 14同好会 発足
 - ☆ 研究補助・県外視察補助 1名
 - ☆ 日本連合教育会愛媛大会
 - ☆ 研究のまとめ 発刊

2 会計報告

令和7年3月31日現在 (会計監査は5月下旬に予定)

一般会計	歳入決算額	歳出決算額	差引残額
	10,161,505円	8,621,058円	1,540,447円
特別会計	事業資金	令和6年度年度支出額	差引残額
	19,222,651円	-1,500,000円	20,722,651

2025年度 木曾教育会事業ならびに運営計画

1 基本方針

- (1) 木曾教育会130年を経過し、創立の精神を継承し、会員の協力ときずなを強め、事業を通して、本会の目的の達成に期する。
(本会の目的)
会員一体となって教育精神を高揚し、教育の刷新とその充実を図り、ますます郷土文化を開発し、もって平和日本の建設と世界文化の進展に貢献すること。
- (2) 各学校職場の自主的な研修の基盤に立ち、その協力のもとに本会の目的に照らし意義ある事業、ならびに21世紀を生きる子どもに生きてはたらく事業の充実を図る。
- (3) 各事業は、会員の要望並びに同好の集まりの良さを生かす方向で広げ、会員の熱意に期待し、清新にして闊達の気あふれるよう運営する。
- (4) 各種の事業研究調査の委員会は、「21世紀に生きる力を育む木曾教育の創造」に立つ研究体制にのっとり活動を推進する。委員等は、幅広い会員の参加を得るように年齢・性別・学校等に偏りのないよう配慮する。
- (5) 教育会の目的にそって、郡的な文化活動推進の役割を担い、関係機関と提携して教育精神の高揚と教育の進展を図る。

2 各種事業の計画とその方針

基本方針をふまえ、前年度の反省を加えて、次のように各事業を計画する。

(1) 総集会

- ① 総集会(第139回)を、5月16日(金)に木曾文化公園文化ホールで開催する。
- ② 全会員の参加により、充実した研修の機会とする。
- ③ 優れた講師を招き、講演会を持ち、深さと幅のある集会とする。
講師 アイロボットジャパン合同会社 代表執行役員社長 挽野 元(ひきの はじめ)様
- ④ 会員の意見・研究発表、調査委員会の報告等により、会員の資質を高める。
○会員による研究発表

(2) 事業部

I 研究調査部

- ① 道徳・人権教育委員会(4名) ② 令和の学び・新しい学び委員会(4名)
 - ② 養護教育委員会(4名)
- ア 研究調査部主催の研究会
・道徳・人権教育研究協議会 ・養護教諭研究発表会(R7~8年度は休止)
- イ 委員会で研究授業を行う際は、一度は一般会員に参観を呼びかける。

II 郷土館部

- ④ 郷土調査委員会(5名)

III 編集部

- ⑤ 『木曾教育』編集委員会 [開田小学校] ※ [木曾町中だが合併の為 次年度]
- ⑥ 『清音』編集委員会 [上松小学校]

IV 専門部 なし

V 教養部

⑦ 夏期大学・講演・講習

ア 第77回の夏期大学を、郡町村会と共催し、全会員並びに地域住民の積極的参加を求め、充実した研修の場とする。

イ 開校以来77回の本大学の歴史と伝統に学び、充実を図る。

・期日及び講師

7月29日(火) 哲学 伊藤 益^{すすむ}先生 (筑波大学名誉教授)

7月30日(水) 文芸 伊藤 由希子先生 (日本女子大学国際文化学部准教授)

7月31日(木) 時局 中西 寛^{ひろし}先生 (京都大学法学研究科教授)

8月1日(金) 芸術 福江 良純先生 (北海道教育大学教授)

ウ 講演・講習 会員のためにより研修の機会となるよう設定する。

⑧ 同好会 郡研修日：夏休み中を含め、年4回

郡研修日 4月9日(水) 6月11日(水) 11月5日(水)

・授業研究会、講習会等 一般会員に参加を呼びかける。

・教育課程研究会への協力

VI 特別委員会

⑨ ホームページあり方委員会(3名)

・・・ホームページ立ち上げ・管理方法検討

⑩ 「二校目 教師の集い」実施委員会(理事会担当)

※第1回は、令和6年度グループリーダーになった方にサポートをしていただく。

※第3回は、信濃教育会「信州教師塾B」として開催。

(3) 他団体との共催による会合

① 新任者の集い 4月24日(木) [木曾教育会館]

信濃教育会、木曾郡校長会、町村教委連絡協議会との共催

② 木曾地区教育研究集会 9月6日(土) [福島学校]

県教組木曾支部、県校長教頭組合木曾支部との共催

③ 信濃教育会の教師塾Bと二校目教師の集いの共催 10月24日(金) [木曾教育会館]

④ その他

・郡図書館教育研究協議会 (郡校長会)

・信濃教育会「今を生きる子どもの絵」巡回展 (信濃教育会、郡校長会)

・人権教育連絡協議会 (郡校長会)

・信教全県大会 (信濃教育会)

・教育課程研究会 (郡校長会)

3 その他

(1) 助成事業

・視察・研究助成(4組)：1名または1組あたり 2万円(計8万円)

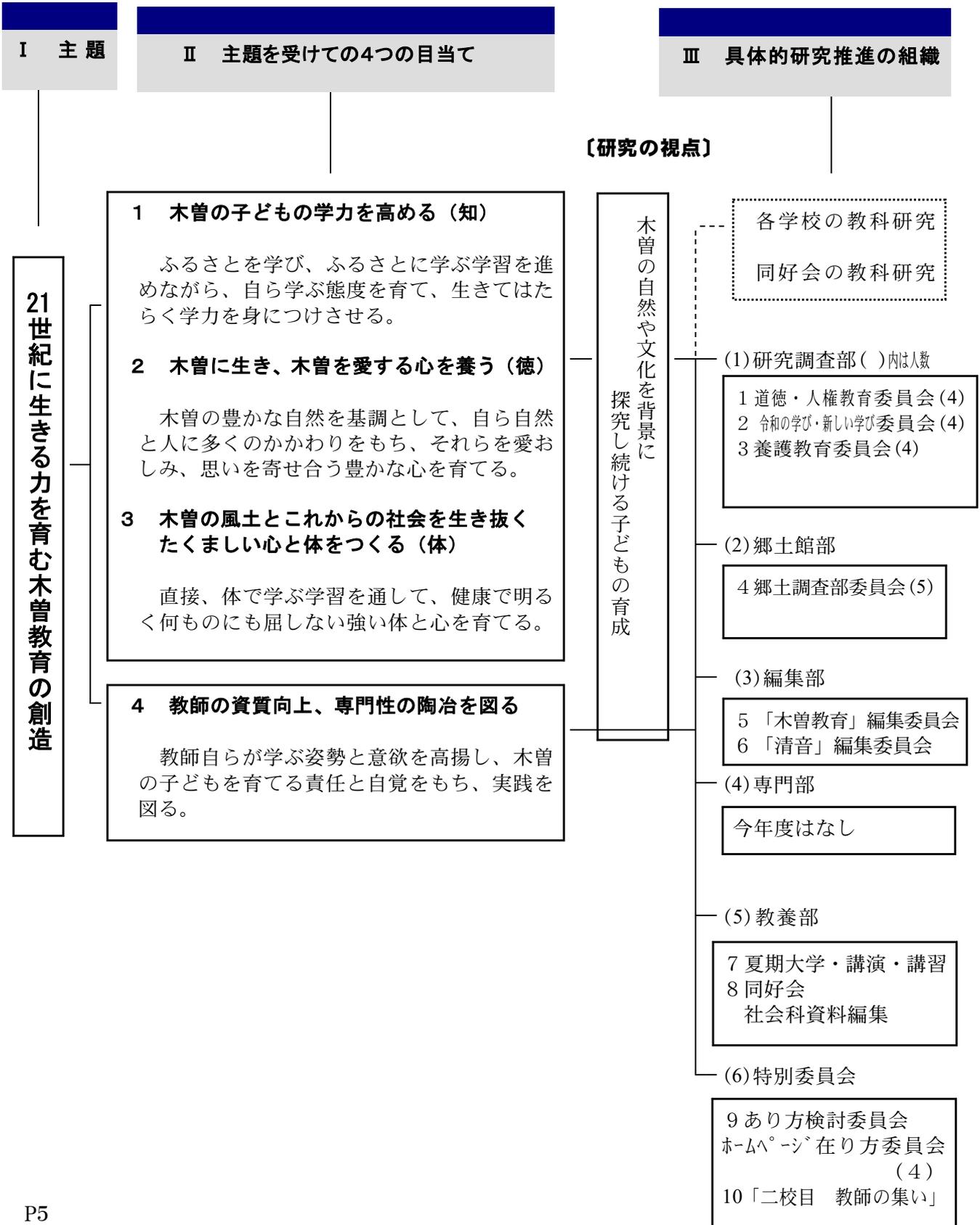
・研究会等参加助成(※)：1名あたり5千円(計2万円)

※任意の組織の代表等で研究科等に参加する場合に、出張扱いにならない時の助成

(2) 教育団体への助成 各種展覧会、同好会関係研究大会助成

(3) 教育会館の移転検討準備

「21世紀に生きる力を育む木曾教育の創造」に立つ研究体制



木曾教育会の研究の進め方

木曾教育会研究調査部

1 令和7年度の研究の方向

(1) 令和6年度の研究を継続しながら、研究の視点を次のように進めたい。

主 題	21世紀に生きる力を育む木曾教育の創造
めあて	1 木曾の子どもの学力を高める（知） 2 木曾に生き、木曾を愛する心を養う（徳） 3 木曾の風土とこれからの社会を生き抜くたくましい心と体をつくる（体） 4 教師の資質向上、専門性の陶冶を図る
研究の視点	木曾の自然や文化を背景に、探究し続ける子どもの育成

(2) 組織の構成は、次の10とする。

1 道徳・人権教育（仮称）	2 令和の学び・新しい学び（仮称）	3 養護教育（R7、R8は休止）	
4 郷土調査	5 「木曾教育」編集	6 「清音」編集	7 夏期大学・講演・講習
8 同好会	9 あり方検討	10 「二校目 教師の集い」	

2 委員会のテーマと「研究の視点」との関係

各委員会のテーマはそれぞれ独自のものでよいが、そのテーマに「研究の視点」を反映させるようにさせたい。各学校の子どもの実態をとらえ、地の利を生かし、木曾の子どもたちに主体的に探究する力をつける指導の場の構成を目指したい。

3 予想される研究内容

- (1) 児童・生徒の活動や一時間の授業や一単元の構想
- (2) 先進施設・関係機関の見学等の研修
- (3) テーマを掲げて、情報交換や対話による研修
- (4) 関連する会合の開催のための企画や協力

4 研究調査のまとめ

現場への還元は、次のような方法で考えていく。

- (1) 各委員会独自のもの
- (2) 総集会、研究会、研修会における発表
- (3) 「研究・事業概要の報告」は第4回代議員会にて各委員会の代表者が概要を報告する。
 - ①まとめの仕方については、後日文書で依頼し、1月中旬に委員会ごと印刷して提出。3月に各学校へ配布する。
 - ②冊子の他に、委員会ごとのものを各学校へ1部ずつ配布。参考資料として活用する。
 - ③概要報告、研究のまとめ、「木曾教育」、「清音」等との大きな重複は避けながらも、今後の記録として残るようしておく。
 - ④総集会等、会員発表の場でも発表することができる。

5 研究調査のための補助

- (1) 委員会事業については、予算に従って補助をする。
- (2) 同好会についても予算に従って補助をする。
- (3) 個人や学校単位での視察や研究、研修への補助をする。

6 研究のための活動日

- (1) 委員会事業については、原則として火曜日とする。
- (2) 年間の委員会回数は、6回以内とする。(第1回は4月とし、以降5回をめぐとする。)
なお、6回を超える場合は、会長に申し出る。

7 特別委員会等の設置

- (1) 同好会や委員会に委嘱して運営することに支障が生じる場合には、必要に応じて特別委員会を設置することができる。この場合、必要があれば郡校長会と連絡をとる。
- (2) 同好会と研究上の連携を保つために、必要に応じて「連絡機関」を設置する。
- (3) 信濃教育会全県研究大会の当郡開催の場合は、会場校の主体性を重んじながら、研究の支援体制を組むこともある。
- (4) 令和5年度に設置したホームページ在り方委員会は、令和7年度も継続して設置し、ホームページの立ち上げ準備作業に入り、併せて今後の管理方法について検討する。

8 同好会に委嘱を必要とする事業

教科の同好会の中から委員を委嘱して、旅費の補助をする。

- (1) 郷土社会科資料(小学校3・4学年)の編集作業 (社会科)
- (2) 郷土社会科資料(中学校地理編・歴史編)の編集作業 (社会科)
- (3) 「今を生きる子どもの絵展」「県児童生徒美術展」「習字」「読書感想コンクール」「科学作品展」の作品募集と審査(図工・美術、国語、理科)

9 他団体との連携・共催による会合

- (1) 共催による会合
 - ① 木曾地区教育研究集会 (県教組木曾支部・県長頭組木曾支部)
 - ② 郡図書館教育研究協議会 (県図書館協会木曾支部)
- (2) 信濃教育会全県研究大会への支援
- (3) 教育課程研究会との連携
 - ① 会場校が必要とする場合は、会場校が同好会や委員会と連絡を取り合って決める。
- (4) 木曾地区教育研究集会
 - ① 学校、職場、個人等による研究発表の場ととらえ、積極的な参加を期待する。
 - ② 各委員会は、前年度に引き続き研究の成果をもって参加する方向で考える。
(道徳・人権教育(仮称) 令和の学び・新しい学び(仮称) 養護教育 等)

10 参考

- (1) 平成27年度までの研究の視点

年 度	研 究 の 視 点
平成5～6	基礎的基本的な内容を身につけさせる1時間の授業展開と評価
平成7～8	基礎的基本的な内容が身につく1時間の授業展開と評価
平成9～23	木曾の子どもの姿を確かにとらえ、つける力とその指導の過程を明らかにする。
平成24～令和5年	木曾の子どもの姿をとらえ、子どもとともに学びを深める授業づくり
令和6年～	木曾の自然や文化を背景に、探究し続ける子どもの育成

- (2) 各委員会の研究テーマ等(各委員会の引継による)

令和7年度 木曾教育会役員名簿

1 木曾教育会

会 長	宮坂 寛	福島小学校
副会長	岩原 浩司	木祖中学校
理 事	手塚 幸宏	南木曾中学校
	小林 博樹	大桑中学校
	長谷川 松実	木祖小学校
監 事	神山 明彦	木曾養護学校
	小林 孝基	大桑小学校
幹 事	清水 なるみ	木祖中学校
	加山 雅康	王滝小学校
	鬼頭 康	上松小学校
事務局	上田 宏志	
	上垣外 澄子	

2 信濃教育会

常任委員	宮坂 寛	福島小学校
代議員	岩原 浩司	木祖中学校
(補欠員)	手塚 幸宏	南木曾中学校

令和7年度 木曾教育会代議員会名簿・会員数 2025/4/30現在

No	学校名	木曾教育会会員数	信濃教育会会員数	代議員会氏名	
1	木祖小学校	12	8	奥原 克水	
2	木祖中学校	12	9	加藤 博巳	
3	日義小学校	11	11	林 正明	
4	日義中学校	6	4	腰原 誠	
5	福島小学校	17	18	橋爪 祐一	常田 和志
6	木曾町中学校	12	11	渡澤 由香	
7	開田小学校	9	6	大輪 涼	
8	開田中学校	12	8	平原 稔久	
9	三岳小学校	10	8	北原 淳子	
10	王滝小学校	7	6	倉上 貴匡	
11	上松小学校	19	15	中村 純也	鈴木 香里
12	上松中学校	11	9	古田 雅喜	
13	大桑小学校	14	14	久保田 敬	
14	大桑中学校	14	10	外垣 秀毅	
15	南木曾小学校	11	6	岩田 祥	
16	南木曾中学校	17	10	脇田 隆彦	川勝 克仁
17	木曾養護学校	14	11	小林 真理子	
	合計人数	208	164	20	

※代議員数・・会員15名まで1名（「木曾教育会定款」施行に関する細則第6条）

令和7年度 木曾教育会事業部委員会構成

部 名	No.	委員会名	委員長	副委員長	委 員		備 考
I 研究 調査 部 小林理事	1	道徳・人権教育 (4)	吉江あや子 日義小	月岡 早苗 上松中	小穴 裕一 木祖小	所 健太 上松小	
	2	令和の学び・新 しい学び(4)	久保 勝哉 福島小	岩田 祥 南木曾小	黒岩 航 木祖中	末木幸司郎 南木曾中	
	3	養護教育 (4)		令和7~8年度 休止			
II 郷 土 館 部 長谷川理事	4	郷土調査 (5)	田口浩一郎 木曾町中	平原 稔久 開田中	古田 成美 大桑小	武居 康太 南木曾小	滋田 祐希 三岳小
		自然調査 (4)		平成30度より理科同好会へ活動移行			
III 編 集 部 小林理事	5	『木曾教育』 編集	開田小学校		令和8年度：木曾町中学校		
	6	『清音』編集	上松小学校		令和8年度：王滝小学校		
IV 専門部 理事		青年教師フォーラム 信教委員	令和6年度は活動なし				
V 教 養 部 手塚理事	7	夏期大学 講演・講習	全理事				
	8	同 好 会 認定・補助金	理事 手塚 幸宏				
VI 特別 委員会	9	あり方検討 ホームページあ り方委員会(3)	牧 友博 開田中		三浦 康典 木曾養	徳武 和 日義中	
	10	二校目教師の集い	全理事				
清 音 の 会			会長 <u>宮坂 寛</u> 副会長 <u>岩原 浩司</u>				
幹 事			幹事長 <u>清水なるみ</u> 幹事 <u>加山 雅康</u> 幹事 <u>鬼頭 康</u>				

朝

島崎藤村 作詞
小田進吾 作曲

力強く元気に



1. あ さ は ふ た た ー び こ こ ー に あ ー り あ
2. も ろ は う ち ふ ー る く だ ー か け ー は のん



さ は わ れ ら と と ー も に あ ー り う
ど の ふ え を ー ふ ー き な ら ー し きよ



も れ よ ね む り ゆ ー け よ ゆ ー め か く
う の い の ち の た ー た か い ー の よ そ



れ よ さ ー ら ー ば ー さ ー よ あ ら ー し
お い せ ー よ ー と ー さ ー け ー ぶ か な



の ー に ー い ー で よ の ー に い で ー よ い ー
わ ら ー じ ー と く ゆ え か ー ま も と ー れ か ぜ



ね の ほ は き に み の ー り た り
に い な な く う ー ま も ー や ー れ

朝

一 朝はふたたび ここにあり

朝はわれらと共にあり

埋もれよ眠 行けよ夢

隠れよさらば 小夜嵐

二 諸羽うちふる 鶏は

咽喉の笛を 吹き鳴らし

きょうの命の たたかいの

よそおいせよと 叫ぶかな

三 野に出でよ 野に出でよ

稲の穂は 黄にみりたり

草鞋とく結え 鎌も執れ

風に嘶く馬もやれ